

60周年に寄せて



五 道 仁 実*

プレストレストコンクリート工学会におかれましては、設立60周年を迎えられましたことに心からお祝い申し上げます。

貴工学会は、昭和33（1958）年2月にプレストレストコンクリート技術協会として設立以来、長きにわたり、橋梁を始めとしたコンクリート構造物におけるPC技術に関する学術研究や新たな技術開発等に貢献され、大きな発展と多くの成果をあげてられました。

インフラの整備には、これらのPC技術は必要不可欠なものとなっており、さらには、今後迎える施設の老朽化に伴う補修や更新にあたっては、PC技術の発展に大変期待をしているところであります。

また、新たな技術開発のみならず、これまで培ってきた技術の伝承や技術者の養成の観点より、構造物の設計・施工から点検・診断など維持管理を含めて、とくに、メンテナンス分野において技術者の質の向上を図る目的で「プレストレストコンクリート技士」や「コンクリート構造診断士」の資格認定制度に取り組み、国土交通省の橋梁（コンクリート）ならびにトンネル分野に必要な技術水準を満たす技術者資格登録（H27・H29）に登録されるなど、点検・診断業務においてご協力と多大なる貢献に対して感謝を申し上げます。

近年においては、「高強度鉄筋緊張PRC構造の設計指針」や「コンクリート橋・複合橋の保全マニュアル」など、橋梁における新たな構造形式や架設方法、維持管理における数多くの技術規準や指針を策定し、技術の普及と最新技術の提供に向けて数々の講習会・セミナーを開催するなど、PC技術の進展に寄与されています。

さらに、人口減少や少子高齢化の進展により、建設産

業全体での担い手の確保が課題とされております。そのためにも、新たな入職者を向かえるにあたり、週休2日や生産性の向上は、現場の環境改善を図るうえで非常に重要であり、官民あげて取り組むべき喫緊の課題であります。

国土交通省においては、建設現場を新3K（給与が良く、休暇が取れる、希望がもてる）の環境にするべく、生産性革命プロジェクトの一つであるi-Constructionを強力に進めています。コンクリート工の分野においても平成28（2016）年3月に「コンクリート工生産性向上検討協議会」を設置し、専門分野における有識者や関係業界の皆様からの意見などを踏まえて今後取り組むべき課題や取組方針などの検討を行っております。

わが国では、高度成長期から多数のコンクリート構造物が建設され、これからも、インフラ整備には橋梁などの大規模なコンクリート構造物の築造に必要なPC技術は不可欠であります。

貴工学会におかれましては、これまでも率先してPC技術に係る技術研究や技術開発に加えて、働き方改革や生産性向上に取り組んでいただいているところであります。今後もインフラの適正な整備・維持管理を進めるにあたり、効率性を高めつつ、高い品質を確保するとともに、新技術の導入や施工性・耐久性に優れた構造物を整備することが、今まで以上に求められています。

この60周年を節目として、さらなる技術研究や技術開発にかかわる取組みを充実させ、インフラ整備に欠かすことのできないPC技術を通じて、安全で安心できる社会の構築に向けて一層貢献されるとともに、貴工学会のさらなる発展を祈念いたしまして祝辞とさせていただきます。

* Hitomi GODO：国土交通省大臣官房 技術審議官